

学校教育目標	あかるく なかよく たくましく
目指す学校像	○児童が生き生きと活動し、笑顔と活気があふれる学校 ○児童一人ひとりを大切にし規律ある学校 ○教師が誇りと使命感をもって働く学校 ○教育環境が整い、安心安全で、きれいな学校 ○保護者や地域から信頼されともに歩む学校

重点目標	1 確かな学力の定着を図る教育活動の推進 2 心豊かな児童の育成と信頼感を高める保護者対応 3 リフレッシュ工事下における適正な教育活動の実現 4 メール等による迅速な情報発信と校務の電子化 5 教員の指導力の向上とアクティブ・ラーニング型授業の推進
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実施日令和8年2月13日	
		番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に関する取組	1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国平均を上回っており良好な結果である。また、主体的に学習に取り組む態度に関する質問についても、肯定的な回答をした割合が全体的に高い。 (課題) ○発言の声が小さかったり、自信なさそうに発表したりする姿が見られる。自ら学習に取り組むという点では、個人差が見られる。	・「個別最適な学び」の推進 ・教科横断型の「探究的な学び」の実	①教育のDX推進にかかわり、タブレットを活用した授業の改善を行う。 ②スタディ・サプリアを学校及び家庭において活用を図る。	①児童が毎日授業でタブレットを活用できたことと実感できたか。 ②学校及び家庭において、スタディ・サプリアを活用した学習に取り組めたか。	・タブレットの活用は全ての教員が自然に行っている。児童のリテラシーも高く、普段使いの感覚で学習している。 ・市教育委員会にも指導を受けながら、学校課題研修として、全学年等で授業研究会を実施。	B A	・学習の目的達成に最適な使い方を今後とも追及していく必要がある。 ・スタディ・サプリアは他ソフトでの学習が充実してきたため来年度は使用なし。 ・本校独自のSTEAMSカリキュラムの作成を継続する。来年度市内他校に向けて発表する。	特に問題はない。提案の通りでよい。コンピュータを利用した学習以外にも児童同士の交流、コミュニケーション力の育成にも力を入れてほしい。
		(現状) ○児童は全体的に穏やかで落ちついている。どの学年も誰とでも関わることができる。 ○昨年度は年間を通してあいさつの指導を行ったので、進んであいさつできる児童が増えた。 ○校庭が狭いため、業間か昼休みの一方でしか外遊びをすることができない。 (課題) ○高学年になるにつれて、「心と生活のアンケート」等に心の不安定さが現れる児童が増える。	・児童の生き生きとした教育活動を支援するための迅速かつ組織的な対応	①児童にかかわる問題への対応は「チーム学年」として学年主任を中心に「事実の確認→該当児童への指導→該当保護者への進捗状況の報告」をその日のうちに行う。 ②生徒指導・教育相談にかかわる協議会(定例会)を月に1回開催する。定例会では、1つを生徒指導に、もう1つを教育相談にして、内容の差別化を図り、協議内容の充実を図る。	①問題を覚知した際、その日のうちに対応できたか。 ②生徒指導・教育相談にかかわる諸課題について、それぞれの内容の協議が深まり、専門家や関係機関と連携して対応できたか。	・問題発生時の保護者への速やかな連絡は全校で十分に達成できた。 ・定例会は毎月着実に実施し、生徒指導と教育相談について情報共有を行い、指導方針を確認した。	B	・問題発生時の速やかな連絡は今後も継続する。 ・保護者や地域への分かりやすい情報発信や幅広い情報収集を今後とも心がける。	特に問題はない。提案の通りでよい。学校運営協議会の内容が大変よい。
地域とともにある学校づくりに関する取組	3	(現状) ○本校では紙媒体から電子媒体への移行が概ねできており、保護者へも浸透している。 ○本校では、PTAも地域も学校の教育活動に協力的なので、元々コミュニティ・スクールと同等の取組ができています。 (課題) ○電子媒体の活用が、学校と家庭との双方向の連絡ツールとして、さらなるデジタル化が求められている。 ○学校運営協議会での熟議は活発に行えているので、熟議で話し合われたことについての具体的に取り組むよう心掛ける必要がある。	・学校におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進 ・CSによる学校・家庭・地域の連携強化	①本校から発出される文書については、原則としてHPに掲載し、掲載時にはメールに掲載先のリンクを貼り周知する。 ②児童の欠席と低学年の下校予定調査については、Webに欠席連絡フォームで対応する。 ③教材費等の集金は、年4回の振込とし、振込時期を実態に沿って変更する。	①紙媒体の配付を必要最低限とし、電子媒体による情報提供ができたか。 ②欠席連絡や低学年の下校予定調査について、円滑に管理できたか。 ③教材費等の集金の振込時期を、実態に沿って変更できたか。	・メールや学校Webを使った情報発信が主な手段になった。 ・「欠席連絡フォーム」の活用により保護者の負担軽減になった。 ・教材費等の集金は振込により着実に実施。	B B	・2次元コードやGoogleフォーム(オンラインフォーム作成ツール)等の活用を推進していく。 ・2学期の学校運営協議会には、本校教職員も参加し、委員の皆様と綱領を深めた。来年度も継続したい。	特に問題はない。提案の通りでよい。
		(現状) ○4年間にわたる工事で、校庭が半分以下になるなど、適正な教育環境を確保するのが難しい状況にある。保護者や地域の方にも本校の状況を理解していただくことが必要である。 ○校庭が狭いため、業間か昼休みの一方でしか外遊びをすることができない。 ○工事で、校庭が約半分になるなど、適正な教育環境を確保するのが難しい状況にある。保護者や地域の方にも本校の状況を理解していただくことが必要である。	・リフレッシュ改修工事に対応した適正な教育活動の実現	①担当課や工事業者と毎週打合せや相談を行い、当事者意識をもって改修にかかわる。 ②改修工事にかかわる諸課題に対する保護者や地域の方の要望に対して、関係機関に相談し、迅速に対応する。	①関係者との打合せ内容を教職員に周知し、大きな事故無く教育活動を行えたか。 ②保護者や地域の方からの要望について、関係機関と連携し適切に対応できたか。	・体育館棟のリフレッシュ工事は7月から始まり、2月に終わった。工事中の安全管理に努め、事故等はなかった。 ・市教委とも連絡を密にして、地域への周知、安全管理等を十分に行った。	B	・体育館棟の環境整備とよりよい使い方について徹底していく。	特に問題はない。提案の通りでよい。
教職員のキャリア形成に関する取組	5	(現状) ○若い教職員が多く、タブレット等のICT機器の操作の習得が比較的早い。 (課題) ○タブレット等は教育の道具なので、ともすると道具を使うことが目的になりがちである。従来から大切にされている「児童が課題を意識して学習する」ための指導法について、研鑽を積む必要がある。	・児童の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上	①問題解決型学習において、本時の目標に特化したまとめと振り返りをする授業を全員が行えるよう、毎日校長が校内巡視を行い、必要に応じ指導を行う。 ②振り返りの時間を5分以上確保する授業を全員が行えるよう、全体会や研究推進委員会でのねらいを伝達するとともに、よい実践については具体的によい点を示し全体で共有する。	①問題解決型学習において、本時の目標にかかわるまとめと振り返りをする板書ができたか。 ②授業において振り返りの時間を5分以上確保し、その振り返りを全体で共有し、児童が自分の学びを実感したり、自分の課題をもてたりしたか。	①問題解決型学習において、本時の目標にかかわるまとめと振り返りをする板書ができたか。 ②授業において振り返りの時間を5分以上確保し、その振り返りを全体で共有し、児童が自分の学びを実感したり、自分の課題をもてたりしたか。	B	・転入職員について本校の授業づくりについてできるだけ早い時期に共通理解を図るようにする。 ・今後も振り返りの時間を確保するとともに、個の振り返りだけでなく全体での共有を行うことにより、児童が自分の学びを実感したり、自分の課題をもてたりできるようにする。	特に問題はない。提案の通りでよい。上落合小の教職員は大変よくやっている。